

中国、財政の悪化見通しから格下げ

5月24日、米国の大手格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、中国の発行体格付けを「Aa3」から日本と同じ「A1」に引き下げました。同社は、今回の格下げは、中国の潜在成長率の鈍化に伴ない、政府の債務が増加し、財政状況がやや悪化するとの見通しを反映したものと説明しました。なお、今後の格付けの見通しについては『安定的』としています。

今回の格下げを受けて、中国当局は、政府が進めている構造改革や内需拡大の取り組みを過小評価しているとし、政府債務は適正なペースで拡大する見込みであることや、企業のレバレッジ低下に向けた措置は効果が出ていることから、債務リスクはコントロール可能との認識を示しました。

中国は、今秋に党の重要方針を決定する、5年に一度の共産党全国代表大会を控え、政府がめざす製造業からサービス業への構造改革を加速すべく、過剰設備の解消に向けた国有企業改革を進めています。また、金融分野では、資産の証券化や債務の株式化などを推進し、雇用分野では、構造改革によりレイオフされた労働者への支援として、都市部でのさらなる雇用創出に取り組んでいます。さらに、今年4月には、17年通年で3,800億元規模の減税を発表し、景気刺激を図っています。このように、中国は新常态(ニューノーマル、経済の質を重視した安定成長)を前進させるための構造改革や内需拡大への取り組みのために、財政支出を拡大しています。しかし、最近の中国の債務残高(対GDP比)は50%を下回っており、主要国に比べて低い水準にあることに鑑みれば、財政悪化懸念は小さいとみられます。

17年1-3月期実質GDP(国内総生産)成長率は、今年の政府目標である6.5%前後を上回る6.9%増となり、今後も、政府の適切な政策対応などにより、安定的な経済・財政が維持されると期待されます。

主要国の政府債務残高(対GDP比)の比較

	2010年	2013年	2016年*	2016年の順位**
日本*	216%	240%	239%	1
イタリア	115%	129%	133%	5
米国*	96%	105%	107%	15
フランス*	82%	92%	97%	21
カナダ	81%	86%	92%	25
英国	76%	86%	89%	26
ドイツ	81%	77%	68%	52
中国*	34%	37%	46%	103
豪州	20%	31%	41%	117

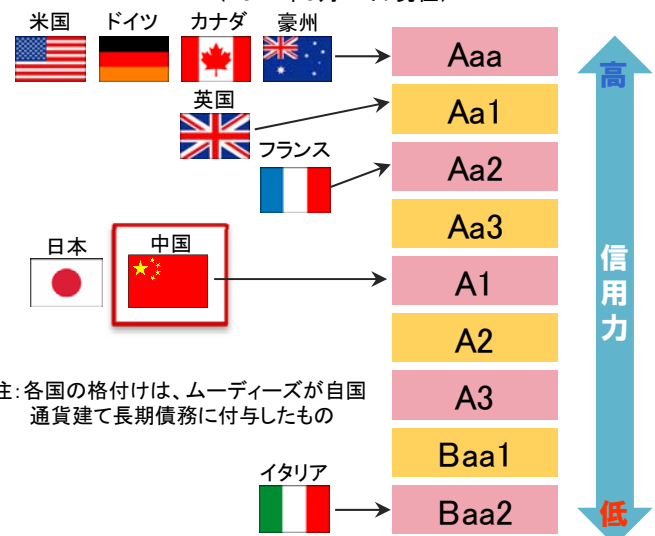
* 2016年の日本、米国、フランス、中国は推計値

** 2016年時点で連続してIMFデータが取得できる185か国中の順位

出所: IMF「World Economic Outlook Database, April 2017」

主要国の国債格付け

(2017年5月24日現在)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび推計であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。